

日本におけるバラッサ・サミュエルソン効果の構造変化

山本周吾

〈要旨〉

本稿は，戦後から増価トレンドにあった日本の実質為替レートが，1990年代以降に減価トレンドへとシフトした原因を，バラッサ・サミュエルソン効果の構造変化を基に実証分析したものである。バラッサ・サミュエルソン効果は貿易財と非貿易財の産業構造に依存しているが，90年代に部門間の賃金の同一性という前提条件が満たされなくなった。すると，貿易財部門の高い生産性が非貿易財価格に波及しなくなり，バラッサ・サミュエルソン効果が低下した。その結果，実質為替レートが1990年代以降に減価トレンドとなった。